



活動報告

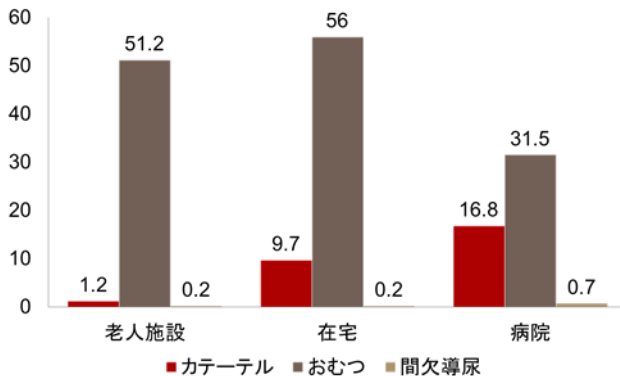
今月は皮膚排泄ケア
認定看護師

毎年、近隣の施設や訪問看護ステーションを対象にした院外セミナーや院内看護師を対象にしたカフェセミナーを開催しています。

超高齢社会で老人施設が増え、入院患者に占める高齢者の割合も増加しています。皮膚・排泄ケア分野では、排尿自立に向けた取り組みを行うよう推奨されていますが、手が回っていない施設や病院が多数を占めている現状があります。そのため、排尿に困っている方に気付けない、また本来、**自立できるにも関わらず、オムツ内排泄を余儀なくされている方も少なからずいます。**トイレに行こうとして転倒するケースも多く、常にぴりぴりして、ジレンマに陥る看護師や介護者も多いのではないのでしょうか？頻度の違いはあると思いますが、在宅や施設、病院でも同じような状況があると思われれます。

今年度のセミナーは院外も院内も高齢者の排尿障害を理解することで、ケアに結びつけるきっかけになればと考え、**【高齢者の排尿機能を理解する～アセスメントとケア～】**をテーマに選びました。

高齢者排尿ケアの実態調査



在宅・施設では半数・病院でも3割がおむつを使用しています。

排尿のメカニズムや排尿障害の種類と病態、アセスメントとケア、排尿日誌の活用方法などについて講義を行いました。アンケートでは**「夜間の徘徊原因は失禁や頻尿・神経疾患があることが学べた」「失禁でプライドを傷つけない対応をしようと思った」「症状にあわせたケア方法・アセスメント方法が学べた」**等の声が寄せられました。一方、高齢者施設で個人の排尿パターンに合わせるアドバイスを問われ、答えに詰まりました。現場のケアに寄り添うことが必要だなと感じた瞬間でした。机上の知識のみを伝達するのではなく、活かせるものを得てもらえるよう頑張ります！



認定看護師の豆知識

今月は認知症看護
認定看護師

認知症の基礎知識

2015年厚生労働省は、65歳以上の認知症の人は2012年で462万人、2025年には約700万人で、**高齢者の5人に1人が認知症**になると推定値を発表しており、社会的にも大きな関心となっています。認知症とは、物忘れ、日時や場所が理解できない、人格の変化、段取りができないなどの症状により日常生活に支障を来す病気です。認知症の代表とも言えるアルツハイマー病の症状と言えば、物忘れが有名です。しかし物忘れは、年齢を重ねるとどなたでも出てくる症状です。では、認知症の物忘れと、加齢による物忘れはどこが違うのでしょうか？

加齢による物忘れは、体験した一部のことを忘れるのに対して、認知症の物忘れは、体験したことすべてを忘れてしまいます。具体的に述べると、朝食を食べた事は覚えているが、何を食べたのかを忘れてしまったというのが、加齢による物忘れ。朝食を摂ったこと自体を忘れて「まだ食べていない」というのが認知症の物忘れです。



その他に、物忘れを自覚していない、探し物を誰かが盗ったという、時間や場所、人がわからなくなるのも認知症の物忘れの特徴です。アルツハイマー病の症状には物忘れ以外に、趣味や好みの変化、掃除や料理が下手になる、服装がだらしなくなるなどの症状が出ることもあります。徐々に、怒りっぽくなったり、妄想や幻覚、徘徊などの症状が出現することがあります。**認知症の根本的な治療はありませんが、進行を遅くする薬があります。**薬剤を用いることで、認知症の症状が軽減する場合があります。また、脳梗塞、脳出血、正常圧水頭症などの病気や、甲状腺機能異常など内科の病気でも認知症の症状が出現する場合があります。これらの場合、疾患に対する治療を行うと、認知症の症状も改善することがあります。いずれにしても、**気になる症状などがあれば、なるべく早く医療機関を受診しましょう。**



認知症看護認定看護師 藤原則子

各分野電話番号



カフェセミナー開催中！！

12:00から12:30セミナー1

※時間変更しています。

2/12認知症看護

2/26救急看護

奮ってご参加ください！

救急看護:村上 8863
慢性心不全看護:原谷 8154
感染管理:藪内 8623
皮膚排泄:大西 8397
認知症看護:藤原 8667
集中ケア:堀内 8676または
HCU1301

